

# 岩手県の 土地改良



## CONTENTS

- 酉年の大きな羽ばたき  
岩手県土地改良事業団体連合会会長 及川正和 …… 2
- 新年にあたって  
全国土地改良事業団体連合会会長 二階俊博 …… 3
- 本年も「闘う土地改良」で全力  
全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問  
参議院議員 進藤金日子 …… 4
- 第39回全国土地改良大会石川大会が開催 …… 5
- 平賀 巖 新副会長が就任 …… 5
- 平成28年度の国の第2次補正予算について …… 6
- 闘う土地改良を旗印に全国から集結 …… 6
- ほ場整備の着実な推進を要請 …… 7
- 平成29年度当初予算の確保を強く要請 …… 7
- 活力ある農業農村を目指して …… 8
- 設立60周年記念式典並びに祝賀会を開催 …… 8

2017(1月) No.573

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号  
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／田山 清 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

「夜明の田園」 平 宏之進

平成28年度「農村景観」写真コンクール 風景部門 最優秀賞





## 酉年の大きな羽ばたき

岩手県土地改良事業団体連合会  
会長 及川 正和

明けましておめでとうございます。新年が皆様にとって良き年となりますようお祈り申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、土地改良に携わる私共にとって、今後の土地改良のあり方に大きな追い風となる二つの流れと、その一方で、自然災害の甚大さを痛感させられた年でありました。

まずは、昨年7月の参議院選挙において、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問である進藤金日子氏が、我々、土地改良の代表として見事に当選を果たされました。改めて、皆様方のご支援、ご協力に衷心より厚く御礼と感謝を申し上げます。進藤議員には新年も引き続き、「闘う土地改良」の先頭に立っての力強いご活躍を期待するところです。

二つ目は、「新たな土地改良長期計画」と「土地改良関係予算」についてです。国は昨年8月に、「個性と活力のある豊かな農業・農村の実現を目指して」と副題を明記した、新たな土地改良長期計画を策定しました。今後の土地改良のあり方として、単に農地や農業水利施設の機能を次世代に継承するだけでなく、所得の向上等をもたらし、力強い農業を牽引できるよう、更なる深化が求められております。この所得向上には、生産基盤と併せて整備効果を最大限に活かす経営力が重要となることから、基盤整備と併せた農地利用集積はもとより、ICT技術を活用した生産コスト管理の高度化やクラウドを活用した農業経営支援等を、JAをはじめとする関係機関と連携しながら積極的に進める必要があります。

土地改良関係予算については、国は前年の990億円を大きく上回る1,752億円の補正予算を措置するとともに、29年度当初予算についても、前年度比120%に当たる4,584億円を概算要求しています。私共の悲願である、計画的、安定的な事業推進に不可欠な当初予算の回復に期待が高まっていますが、TPP交渉の行く末が定まらない状況では、補正に頼らない当初における予算確保の重要性が、一層大きくなっています。

一方、昨年の8月、本県沿岸に初上陸と言われる台風10号の記録的な豪雨による未曾有の災害が発生しました。亡くなられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、被災され不自由な生活を余儀なくされている方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。

私も2度に亘り被災地に赴きました。現地では、河川沿いの農地が、稲穂が隠れるほど堆積した土砂で覆い尽くされており、農業機械についても大きく被害を受けたと聞きました。本会では、被災直後の状況把握や現地調査の段階から、復旧に向けた活動に対して会の総力を挙げて支援をしておりますが、市町村等のマンパワーに加え、コンサルや建設会社の人員が不足している実情では、年内の災害査定終了にあっても、春の営農再開に向けてはまだまだ課題があると感じたところです。

本県では、東日本大震災は言うまでもなく、平成25年にも豪雨災害に見舞われており、今後も過去に類を見ない豪雨等の自然災害の頻発が想定されております。雪と寒さによって冬季の復旧工事が困難となる本県においては、災害から農業を守り、集落を維持するためには、早期の災害査定と復旧工事を確実にする取組と工夫が不可欠であると痛感いたしました。こうした中で、組織目標に「農業農村整備のセーフティーネットを目指す」を掲げております本会として、この負託に応えられるよう、一層の組織体制の充実を図る必要があるとの思いを強くしております。

また今年は、TPP協定の行く末とともに、30年産からのコメの生産調整に関する国の関与の見直しなど、農政の大きな変化に対して一層の注視が必要となる年であります。

予算の確保による農業農村整備の推進や災害からの復興に向け、国、県や関係団体のご指導をいただきながら、会員の皆様と役職員の力を合わせ、大きく羽ばたくことができる酉年となるよう願っております。



## 新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会  
会長 二階 俊博

平成29年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、多くの災害に見舞われました。4月には熊本県と大分県で、また、10月には鳥取県で大規模な地震が複数回発生しました。現地では復旧作業が急ピッチで行われておりますが、今なお避難生活を余儀無くされている方々が多数おられます。また、8月末から9月には東北・北海道に、10月には南九州にそれぞれ台風が襲来し、洪水による被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思いません。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に七割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。これまで各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりましたが、この度、全国の皆様の熱心な要請活動によって、平成28年度補正予算で1,752億円を確保するなど、平成29年度当初予算も含め、ようやく以前の水準に近いところにまで漕ぎ着けることが出来ました。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、農林水産省では、昨年8月に新たな土地改良長期計画を策定されました。その中で、産業政策として「豊かで競争力ある農業」、地域政策として「美しく活力ある農村」、さらに産業政策と地域政策を支える土台として「強くしてしなやかな農業農村」の3つの政策課題を掲げられております。また、昨年11月には、政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」が決定され、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に位置づけられました。このプログラムには、農業生産・流通の構造改革とともに、真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直しも謳われております。農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担を無くし、事業実施への同意を不要とすること、また、土地改良区の体制強化等についても検討を進めることとされています。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思えます。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



## 本年も「闘う土地改良」で全力

全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問  
参議院議員 進 藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、皆様のご支援をいただき、現在、参議院議員として国政に参画いたしております。土地改良に関係する方々が心を一つにいただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

昨年は、本当に災害の多い年でした。4月の熊本地震被害、8月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動等に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年8月に閣議決定された土地改良長期計画実動の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年11月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。特に、「農業競争力強化プログラム」は、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力のみでは解決できない構造的な問題を解決するため、13項目にわたる課題に対する取組みの道筋を示し、その実行により農業者の所得向上を図ろうとするものです。土地改良については、土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設の他、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（15人以上）の廃止、突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは、今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくこととなります。

次に予算です。今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成29年度予算政府案においても着実に予算が回復してまいりました。補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立って全力を尽くし、皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいりる覚悟です。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



## 第39回全国土地改良大会石川大会が開催

— 『水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ』をテーマに —

全国土地改良大会石川大会が、10月25日に金沢市のいしかわ総合スポーツセンターにおいて開催された。『水土里の明日を築く土地改良今こそ未来へつなぐ』をテーマに磯崎陽輔農林水産副大臣を始め、全国の水土里ネット関係者ら約4,300人が参加し、大会を盛り上げた。

開催に当たり、主催者である二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が、「農林水産省では、この8月に新たな『土地改良長期計画』を策定し、産業政策として『豊かで競争力のある農業』、地域政策として『美しく活力ある農村』、産業政策と地域政策を支える土台として『強くてしなやかな農業・農村』の3つの政策課題を掲げた。我々はこれまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、『闘う土地改良』を活動の基本とし、積極的に貢献していくことが重要であると考えている。明日の事業視察では石川県の農業農村に果たしてきた役割を肌で感じていただき、我々に課せられた使命の重要性を認識するとともに、土地改良を通じて各地域の課題をいかに解決し、地域農業の振興に貢献が出来るかを考える機会としていただきたい」と挨拶した。



【挨拶する二階会長】

続いて、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問である進藤金日子参議院議員が、「国内の生産をしっかりと守っていくため、基本となるのが農地と水であり、その機能を維持、向上

していくことが土地改良である。『土地改良は日本の命綱』であり、この命綱を守るため、当初予算を安定的に確保していくことを目指し頑張っていきたい。日本の農業農村が元気になることを心からお祈りする」と祝辞を述べた。

また、土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰46名が栄に浴した。本県からは、井上良一岩手山麓土地改良区理事長（本会監事）が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した。



【全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した井上理事長】

このほか、基調講演では、室本隆司農林水産省農村振興局次長が『国土と未来を築く土地改良』と題し、土地改良のこれまで果たしてきた役割とこれからの目指すべき姿について紹介した。続く基調報告では、丸山利輔石川県立大学参与が『石川ゆかりの農業農村を支えた先達』と題し、加賀百万石を支えた農業指導書『耕稼春秋』の著者である土屋又三郎などを紹介した。

終わりに、石川県立大学の在校生2名が、「活力ある豊かな農業・農村を目指し、“水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ”」と大会宣言を力強く朗読した後、西村徹石川県土連会長から次期開催県の伊東真英静岡県土連会長に大会旗が引き継がれ、大会は閉幕した。

### 平賀 巖 新副会長が就任

11月14日に開催された第3回理事会に於いて、本会新副会長に平賀 巖 豊沢川土地改良区理事長が互選されました。



【平賀 巖 副会長】

# 平成28年度の国の第2次補正予算（経済対策等）について

10月11日、平成28年度第2次農林水産省補正予算が成立した。農業農村整備関係予算は1,752億円となり、平成27年度補正の990億円から大幅に増額となった。

本県への割当については、県営事業等の国庫補助事業及び県内で実施中の国営土地改良事業合わせて、約43億3,000万円の国費が配分になる見込みで、県予算は、9月定例議会において、国からの経済対策補正割当見込に基づき補正された。

## (1)補助事業

- ▶ 本県への国費割当見込額は、34億2,000万円
- ▶ 割当見込の農業競争力強化基盤整備事業予算のうち、ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）予算は、31億3,000万円

## (2)国営事業

- ▶ 本県で実施している国営土地改良事業（国営かんがい排水事業）に係る割当見込額は、9億1,200万円

【表-1】国の補正予算に係る本県の事業費見込額（農業農村整備事業関連）

（単位：百万円）

事業名	H28当初割当		H28補正予算割当		合計		
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費	
補助事業	農業競争力強化基盤整備事業	1,408	734	6,253	3,302	7,661	4,036
	農業水利施設保全合理化事業	121	77	94	49	215	126
	農村地域防災減災	663	426	126	69	789	495
	農山漁村地域整備交付金	3,438	1,814	-	-	3,438	1,814
	その他補助事業（管理事業等）	421	156	-	-	421	156
計	6,051	3,207	6,473	3,420	12,524	6,627	
国営事業	国営かんがい排水事業	3,620	2,908	1,200	912	4,820	3,820
	国営施設応急対策事業	150	123	-	-	150	123
	計	3,770	3,031	1,200	912	4,970	3,943
合計	9,821	6,238	7,673	4,332	17,494	10,570	

## 闘う土地改良を旗印に全国から集結 — 『農業農村整備の集い』が開催 —

11月28日、全国土地改良事業団体連合会は、平成29年度農業農村整備事業関係当初予算の確保と、各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催した。集いには、全国から土地改良事業関係者約1,100名が参加し、来賓として山本有二農林水産大臣や今村雅弘復興大臣をはじめ、126名の国会議員が出席した。

開会に当たり二階会長は、「御臨席の皆様、土地改良に理解の深い国会議員の皆様、農林水

産省に御尽力いただき、先般の国会において、補正予算1,752億円を確保することができた。今後も平成29年度当初予算の確保に向け、全力で取り組んでいきたい」と挨拶した。

続いて、山本農林水産大臣や進藤金日子参議院議員（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）が、祝辞を述べた。

おわりに要請案文朗読では、5項目を力強く読み上げ、全会一致で採択し、参加者一同によるガンバロウ三唱で閉会した。



【挨拶する二階全土連会長】



【祝辞を述べる山本農林水産大臣】

## ほ場整備の着実な推進を要請 — 自民党、農水省へ要請活動を実施 —

本会では、9月27日、ほ場整備の着実な推進を要請するため、自由民主党並びに農林水産省に対し要請活動を行った。

自由民主党本部では、県内ではほ場整備事業を実施中の各土地改良区理事長が本県選出の国会議員である鈴木俊一議員、高橋ひなこ議員、藤原崇議員、平野達男議員のほか、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問である進藤金子参議院議員に対して要請を行った。

及川正和会長は、「現下の本県農業・農村を巡る情勢を踏まえ、農業農村整備、特に農村集落基盤再編・整備（中山間地域総合整備）事業を含むほ場整備事業関連予算について、平成29年度当初予算並びに平成28年度補正予算を十分に確保のうえ、本県への配分をお願いする」と要請した。

また、田山清専務理事が「台風10号による農地・農業用施設災害に対し、本会の組織目標である『農業・農村のセーフティネットを目指す』に基づき全力で対応する」と説明した。

要請に対し、自由民主党県連会長である鈴木俊一議員から、「本県の農村整備を巡る状況は理解している。県選出議員団として、本日の要請の趣旨に基づき力を合わせて努力する。災害の対応については、党として取り組んでおり、土地連においてももしっかり対応願いたい」と激励をいただいた。

また、農林水産省では、佐藤速水農村振興局長と印藤久喜整備部長に面会し、ほ場整備実施地区における高収益作物の栽培に係る課題について、意見を交わした。



【鈴木議員に要請書を手渡す及川会長（中央）】

## 平成29年度当初予算の確保を強く要請 — 財務省、農水省へ要請活動を実施 —

本会では、10月13日に及川正和会長と菊池勲副会長が、財務省及び農林水産省に対し、要請活動を行った。

財務省では、及川会長が岩元達弘主計官に対して、水田におけるほ場整備後の事業効果について説明し、「高収益農業を実現するための転作作物の導入には、ほ場整備による水田の汎用化が必須である。また、畑地かんがいを整備した地区では農業経営の安定によって集落全体で子供の数が増えている。については農業農村整備の必要性を御理解いただき、これらに向けた予算の確保をお願いしたい」と要請した。

岩元主計官からは、「農業インフラの整備は大変重要だと認識しており、平成28年度の当初予算と補正予算編成も例年に比べて増額している。29年度当初予算については、要請いただいたことを受け止め、農水省と相談しながら、進めていきたい」との回答をいただいた。

農林水産省では、県の多田繁農村計画課総括課長と共に、室本隆司農村振興局次長に面会し要請を行った。

室本次長からは、「経営所得安定対策は平成30年度に廃止となるが、その予算を農業農村整備予算にしっかりと戻す必要がある。概算決定まで気を引き締めて頑張っていきたい」とのコメントをいただいた。



【室本次長(左から2人目)に要請書を手渡す及川会長(左)と菊池副会長(右から2人目)、多田総括課長(右)】

## 活力ある農業農村を目指して — 国営和賀中部農業水利事業が完工 —

平成18年に着工した国営和賀中部農業水利事業が今年度完工することを受け、東北農政局（松尾元局長）並びに岩手中部国営土地改良事業促進協議会（菊池勲会長）は、11月1日、ホテルシティプラザ北上において関係者約200名が出席のもと、完工式典及び祝賀会を開催した。

式典では、松尾東北農政局長が式辞を述べたほか、農林水産大臣の代理として、奥田透農林水産省農村振興局整備部長が挨拶した。

続いて、菊池協議会長が、「湯田ダム取水口や、頭首工及び用水路の改修を実施したほか、調整池や除塵機を新設するなど特段の配慮をいた

き心から感謝を申し上げる」と謝辞を述べた。

この事業は、北上市、花巻市及び金ヶ崎町の二市一町に跨る3,392haを受益とする湯田ダム取水口や夏油頭首工などの土地改良施設について、建設後およそ50年が経過し老朽化が著しいことから改修を行ったもので、農業用水の安定的供給に資するとともに、管理システムの再構築により、適切で円滑な用水管理と維持管理費の軽減を目的として、191億2,000万円の総事業費で実施された。

この事業の完工により、当地域における農業生産性の更なる向上と管理体制強化が期待される。



【謝辞を述べる菊池協議会長】



【新設された右岸調整池】

## 設立60周年記念式典並びに祝賀会を開催 — 猿ヶ石北部土地改良区 —

猿ヶ石北部土地改良区（小田島峰雄理事長）設立60周年記念式典が11月29日、花巻温泉ホテル花巻において、農林水産省東北農政局、岩手県をはじめ、平野達男参議院議員、地元の県議会議員や市議会議員など約180名の出席のもと盛大に開催された。

式典では小田島理事長が、「昭和32年3月9日に当土地改良区が設立し、本日を迎えられることは望外の喜びである。地域の特色ある産地づくりのため、集落営農の確立と担い手・法人

への土地利用集積や、水稻・麦・大豆などの土地利用型作物の省力かつ低コスト生産の実現など、本地域の発展に役職員一丸となって邁進することを誓う」と式辞を述べた。

続いて祝賀会が開催され、来賓として出席した及川正和本会会長は、「水と土を守り、次世代に引き継ぐという使命を果たすためにも、地域の絆を大切に、未来に向けた組織体制の強化に繋げていくことを御期待申し上げます」と祝辞を述べた。



【式辞を述べる小田島理事長】



【式典の様子】